

## 107. <世界の人口と地球温暖化>

先日世界の人口が 70 億人に達したと報道されていました。1950 年ではわずかに 25 億人であったものが 60 年余りで 2.8 倍になり、今世紀の半ばには 93 億人に達すると云われています。この人口伸びの多くはインドやアフリカなど開発途上国での増加によるものですが、食糧の調達とともにエネルギーの消費量増大による地球温暖化が危惧されています。

地球温暖化に起因する異常気象の兆候は、最近ではタイ国チャオプラヤー川の大洪水などすでに世界各地で現れています。平均気温が産業革命以前に比べ 2°C 以上上昇すると、人為的には制御不可能な異常気象の暴走が始まると地球環境の専門家は警告しています。

平均気温を 2°C 以内に納めるためには、世界の温室効果ガスの排出量を今世紀半ばまでに現在の半分以下に抑える必要があります。93 億人が現在の日本人と同じレベルの生活を行ったとすると、温室効果ガス排出量は半減どころか現在の 50 倍にもなってしまいます。開発途上国の人々に現状の生活レベルを変えないで欲しいなどとは言えません。先進国である我々自身が率先して温室効果ガスの大幅な削減に取り組むことが最も重要と考えます。

経済危機による円高や T P P 問題に関心が向き、地球温暖化対策の関心がやや薄れているようですが、「COP17」が 11 月 28 日から南アフリカ・ダーバンで開催されます。残念ながら CO<sub>2</sub> 削減目標を巡って先進国と開発途上国間で大きな意見の隔たりがあります。下水道に携わる我々においては、「生活環境のみならず地球環境の保全」を念頭に、下水道分野で今なにを最優先で取り組むべきかを忘れないでほしいと思う今日この頃です。

<戸田技術開発分室 島田正夫>

※ J S 技術開発情報メール No. 121 号 (2011/12/12) に掲載